

空



正六位勲五等平井光長外一名  
任免ノ件

右謹テ奏ス

明治四十一年一月二十九日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望謹

内

閣



裏面白紙

内三二

明治四十一年一月廿八日

内閣書記官 為



内閣總理大臣

望

内閣書記官長

办

正六位勲五等平井光長

任北海道廳支廳長

敘高等官四等

北海道廳支廳長渡邊佳介

依願免本官

正六位勲五等

平井光長

任北海道廳支廳長

敘高等官四等

右謹<sub>テ</sub>奏<sub>ス</sub>

明治四十一年一月二十日

内務大臣

原

敬



内務省

北海道廳支廳長渡邊佳介

依願免本官

右文官分限令第三條第一項第二號前段  
依り謹テ奏ス

明治四十一年一月二十八日

内務大臣 原 敬



内務省

診斷書

鹿兒島縣伊佐郡杏村  
北海道支廳長 渡邊達佳介

一、病名。腦神經衰弱症

一、原因。精神過度、仕用ニ胚胎ス

一、經過。

生来軟弱、質ナレドモ常ニ施藥スルニ至ラス  
幼時麻疹至過、外特記スヘキ疾患ナク  
酒煙共ニ中量ニシテ血族の遺傳的病症  
ノ記スヘキモノナシ一昨年来精神沈鬱、腦及  
四肢ニ麻痺ヲ覺ヘ時々頭痛眩暈ヲ起シ時  
ニ及ニテ卒倒物色ヲ失フセサル事アリ又夜間安眠

ヲ得サル爲ノ漸々身体衰憊シテ未タレ從テ食  
慾不進ノ有様ニアルヲ以テ種々医療ヲ施スト雖  
著シキ効果ヲ見ス却テ病勢増進傾アリ現下  
左如ク症状ヲ呈ス

### 一 現症

昨四十年十月以來ノ病症ヲ記スレバ体格稍ヤ  
軟弱營養佳良ナリ脂肪肥滿ヲ未タレ胸腹  
諸内臓等ニ器質的著シキ異状ヲ認メサル  
モ唯精神的執事務ニ至リテハ忽チ疲労倦怠  
シ覺ヘ頭痛眩暈精神朦朧トナリ頭内厭上  
重頭内搏動ノ感等交々發起シ思考力及記  
憶力共々減退シ睡眠ニ甚シク障害セラレ屢々夢

辭職願

小官儀過般來腦病懼、專ニ治療  
シ加、夫モ輕快ヲ得ス益病勢相暮リ  
身体著シク衰弱、到底職務堪ヘ難ク  
候條亦官ヲ免セラレ度醫師、診斷書相  
添ヘ此般奉願候也

明治四十二年一月廿三日

北海道廳上川支廳長

北海道廳支廳長渡邊佳介



内務大臣原敬殿

幻ノ龍衣ヲ所トナリ動モスレバ眩暈卒倒ヲ未タ  
ニ時々一時性ノ心オチ尤進ラ發作スル事アリ爲  
スニ精神常ニ鬱鬱憂トシテ日頃食慾不進ヲ  
加ヘ大ニ衰弱ヲ来タセリ

### 豫後

初診以來藥劑的理學的種々療法ヲ加フルモ  
更ラニ寸効ナク却テ漸次増悪ノ傾向アルヲ以テ  
依然敏系劇ナル職務ニ從事スルハ益々病勢  
ノ増進ヲ来タレ遂ニ復タ救フ可ラサルニ至ル可シ  
故ニ自今勉メテ精神ヲ安静ニ保テ煩悩的因  
由ノ由因ヲ僻ケ運動ヲ善クシ或ハ閑静ノ地ニ  
轉シ或ハ温泉療法等ヲ行フ等此際取極メ  
静養スルヲ要ス畢竟スルニ目下ノ症状ニ於テ

ハ到底其職務ニ堪ヘサルモノトス

### 右診断候也

明治四十一年一月廿三日

鹿兒島縣伊佐郡大村里四拾三番戶

醫師 永井藤一郎



内務大臣第五二號

別紙渡邊佳介依願免奉官外名任用、件

上奏書進達又  
明治四十一年一月廿八日

内務大臣 原 敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

裏面白紙